

行政事業レビューシート(文部科学省)

| | | | | | | |
|------------------------------------|---|---|----------------|--|-------|-------------------|
| 予算事業名 | 緊急時対策総合支援システム調査等委託費 (旧名称:原子力発電施設等緊急時対策技術調査等委託費) | | 事業開始年度 | 昭和57年度 | | 作成責任者 |
| 担当部局庁 | 科学技術・学術政策局 | | 担当課室 | 原子力安全課 防災環境対策室 | | 防災環境対策室長 田村 厚雄 |
| 会計区分 | エネルギー対策特別会計(電源開発促進勘定) | | 上位政策 | 原子力分野の研究・開発・利用の推進 | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | 特別会計に関する法律施行令 第51条第1項第6号 | | 関係する計 画、通知等 | 防災基本計画、環境放射線モニタリング指針、緊急 被ばく医療のあり方について | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内) | 原子力災害発生時の防災対策のうち緊急時モニタリング、緊急被ばく医療及び防災訓練について調査を実施し、各地方公共団体等の防災関係機関が行う原子力防災対策のより一層の充実を図る。 | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以 内。別添可) | 上記の目的を達成するため、以下の事業を実施する。 ①原子力災害時の放射能拡散影響を迅速かつ的確に予測することによる住民の円滑な避難等の支援や原子力災害時にモニタリング要員が立入り困難な場所におけるモニタリング技術の確立及び大地震等と原子力災害が複合的に発生した場合のモニタリング方策の検討 ②緊急被ばく医療人材の裾野拡大・指導者育成方策の検討、被ばく患者が発生した際の専門家現地派遣・患者の搬送体制の整備等 ③国及び地方公共団体が実施する原子力防災訓練の実態調査、支援・評価による防災訓練の実効性向上 | | | | | |
| 実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時モニタリング関係調査:3課題2機関で実施 ・緊急被ばく医療関係調査:3課題2機関で実施 ・原子力防災訓練関係調査:1課題1機関で実施 ・SPEEDIシステム:365日24時間体制で稼働 ・各地方公共団体の原子力防災訓練の実態調査:12道県 | | | | | |
| 予算の状況 (単位:百万円) | | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度要求 |
| | 予算額(補正後) | 2,232 | 1,784 | 1,113 | 1,337 | 1,271 |
| | 執行額 | 2,151 | 1,618 | 1,094 | | |
| | 執行率 | 96.4% | 90.7% | 98.3% | | |
| | 総事業費(執行ベース) | 2,153 | 1,619 | 1,094 | | |
| 自己点検 | 支出先・ 用途の把握水準・ 状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査により額の確定行為を実施し、毎年度全ての支出先・用途の把握を行っている。 ・各地方公共団体の原子力防災訓練に文部科学省の職員も参加し訓練スキルの向上を図っている。 | | | | |
| | 見直しの 余地 | これまでの事業の進捗等を考慮し、一部事業について廃止も含め検討する。 応札者の参入を更に促すため、過度な入札条件の禁止、公告期間の確保、分かりやすい仕様書の作成に努める。 | | | | |
| 予算・ 監 査 の 効 率 化 | <p>1. 事業評価の観点:この事業は、原子力災害発生時の防災対策のうち、緊急時モニタリング、緊急被ばく医療及び防災訓練について調査を実施し、地方公共団体の原子力防災対策のより一層の充実を進める事業である。</p> <p>2. 所見:本事業は20年以上の継続事業である。緊急時対策総合技術調査及び防護対策技術調査は、平成22年度をもって廃止とする。これら以外については事業の継続の必要性は認められるものの、これまでの事業の成果を適切に検証し、より効果的な事業にするとともに経費の効率化により予算を縮減すべきである。また、応札者の参入を促すため競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性の確保等により、事業の効率化を一層進めるべきである。</p> | | | | | |
| 補記 | | | | | | |

文部科学省

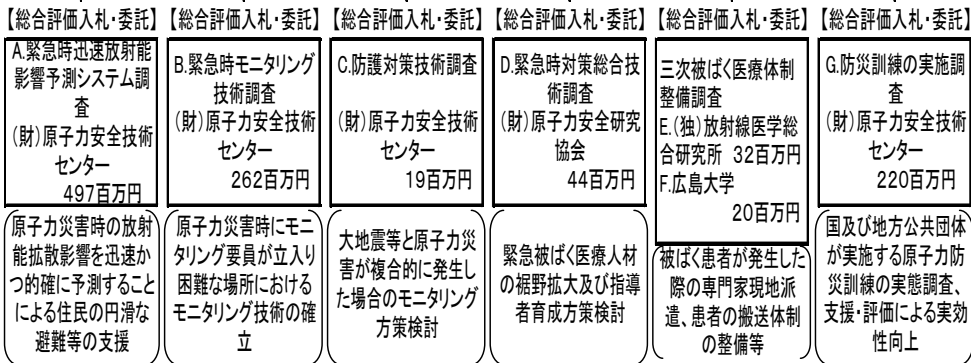
1,094百万円

〔原子力災害時の迅速かつ的確な応急対策の実施〕

〔緊急時放射線モニタリングの実効性向上〕

〔緊急被ばく医療体制の整備〕

〔原子力防災訓練の支援・評価〕



資金の流れ
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)
(単位:百万円)

| A.(財)原子力安全技術センター | | | E.独立行政法人放射線医学総合研究所 | | |
|------------------|---------------------------------------|--------------|--------------------|------------------------------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 調査担当職員等経費 | 161 | 人件費 | 調査担当職員等経費 | 14 |
| 借損料 | 調査システム関連機器借料等 | 129 | 国内旅費 | 調査業務旅費 | 5 |
| 雑役務費 | 調査業務に係る機器保守等 | 72 | 消耗品費 | バイオ機器消耗品 | 3 |
| 電子計算機諸費 | プログラム制作費 | 42 | 雑役務費 | 調査業務に係る機器保守等 | 3 |
| 通信運搬費 | アマダ等専用回線使用料 | 6 | その他 | 諸謝金、会議開催費、消費税相当額 | 4 |
| その他 | 消耗品費、国内旅費、諸謝金、会議開催費、印刷製本費、光熱水料、消費税相当額 | 37 | 一般管理費 | | 2 |
| 一般管理費 | | 50 | | | |
| 計 | | 497 | 計 | | 31 |
| B.(財)原子力安全技術センター | | | F.広島大学 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 調査担当職員等経費 | 110 | 人件費 | 調査担当職員等経費 | 14 |
| 雑役務費 | モニタリング調査用資機材の運用試験・保守等 | 66 | 国内旅費 | 調査業務旅費 | 2 |
| 試作品費 | モニタリング調査用機材 | 24 | その他 | 諸謝金、会議開催費、印刷製本費、消費税相当額 | 1 |
| 国内旅費 | 調査業務旅費 | 7 | 一般管理費 | | 3 |
| 借損料 | モニタリング調査用システム端末借料等 | 7 | | | |
| 消耗品費 | 調査業務実施に係る消耗品 | 3 | | | |
| その他 | 諸謝金、会議開催費、通信運搬費、印刷製本費、保険料、消費税 | 19 | | | |
| 一般管理費 | | 26 | | | |
| 計 | | 262 | 計 | | 20 |
| C.(財)原子力安全技術センター | | | G.(財)原子力安全技術センター | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 調査担当職員等経費 | 10 | 人件費 | 調査担当職員等経費 | 125 |
| 雑役務費 | 海外文献調査 | 5 | 雑役務費 | 訓練運営支援業務等 | 36 |
| その他 | 消耗品費、国内旅費、諸謝金、会議開催費、印刷製本費、消費税相当額 | 2 | 国内旅費 | 調査業務旅費 | 14 |
| 一般管理費 | | 2 | 消耗品費 | 訓練実施に係る消耗品 | 2 |
| | | | その他 | 諸謝金、会議開催費、通信運搬費、印刷製本費、消費税相当額 | 21 |
| | | | 一般管理費 | | 22 |
| 計 | | 19 | 計 | | 220 |
| D.財団法人原子力安全研究協会 | | | H. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 調査担当職員等経費 | 25 | | | |
| 国内旅費 | 調査業務旅費 | 7 | | | |
| その他 | 消耗品費、諸謝金、会議開催費、通信運搬費、印刷製本費、消費税相当額 | 5 | | | |
| 一般管理費 | | 7 | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 44 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げ額と合計は一致しない